

東久留米の野草(5月に観察した植物)No.1



キク科ニガナ



キク科キツネアザミ



キク科キハルジオン



キク科ヒメジョオン



キク科オオキンケイギク



キク科ホソバチチヨグサモドキ



キク科ヤブタビラコ



キク科キハハコグサ



キク科カントウタンポポ

※キク科オオキンケイギク: 国外から輸入された「外来植物」。また、繁殖力が強いことから「特定外来生物」として栽培が禁止されている。

※キク科カントウタンポポ: 複数の生育場所があるものの個体数が少なく絶滅が危惧されている。市内で観察できる主なタンポポは「セイウタンポポ」。

東久留米の野草(5月に観察した植物)No.2



マメ科セッカツメクサ



マメ科ムラサキツメクサ



マメ科クスダマツメクサ



マメ科コメツブツメクサ



ユリ科ホウチャクソウ



ユリ科ワニグチソウ



センリョウ科フタリシズカ



ヒルガオ科コヒルガオ



ハマウツボ科ヤセウツボ

※マメ科セッカツメクサ: 正式な和名は「シロバナアカツメクサ」。個人的には別名のセッカツメクサを採用している。

※写真では、「クスダマツメクサ」、「コメツブツツメクサ」を紹介しているが、他に「コメツブウマゴヤシ」と「ウマゴヤシ」と呼ばれている同じ仲間が帰化している。

※ユリ科「ワニグチソウ」: 市内の一部で現状を維持しながら今でも花を咲かせている。以前生育していた南沢周辺ではわずかに残存している程度。

※センリョウ科フタリシズカ: 市内の生育数は減少傾向にあるが比較的容易に観察できる。同じ仲間の「ヒトリシズカ」が生育しているが市内の雑木林減少に伴い生育地および個体数共に減少傾向。

東久留米の野草(5月に観察した植物)No.3



※アブラナ科イヌガラシ:川沿いなどの比較的湿潤な場所に生育しているアブラナ科の植物。

※ナデシコ科ミミナグサ:市内では絶滅が危惧されている種類の一つ。外来種のオランダミミナグサは市内各所で多く観察できる。反面、大幅減少して観察が難しくなっているため、単体でもその喜びを感じるが群生の場合には喜びもひとしお。

※ラン科セッコク:ラン科の植物は得意形体であったり美しかったり人の心を惹きつける花を咲かせる。同種は市内生育の記録はないが民家の庭先で薄ピンク色の美しい花を咲かせていたもの。

東久留米の野草(5月に観察した植物)No.4



バラ科ナワシロイチゴ



バラ科オヘビイチゴ



ハエドクソウ科トキワハゼ



ハエドクソウ科ムラサキサギゴケ



サトイモ科カラスビシャク



キキョウ科キキョウソウ



ゴマノハグサ科
マツバウンラン



オオバコ科オオカワヂシャ



スイレン科スイレン

※バラ科ナワシロイチゴ:市内各所の雑木林で見ることが出来るバラ科の植物。結実すると親指大の赤色の実をつけ食することが出来る。

※バラ科オヘビイチゴ:市内では数を減らしている種類の一つで、川沿いや湿潤な場所に生育している。ヘビイチゴのように真っ赤な実は付けないが小ぶりの目立たない実を付ける。

※オオバコ科オオカワヂシャ:市内の川沿いで普通に観察できる。在来種の「カワヂシャ」も見られるがこの10年の間で勢力範囲が逆転、オオカワヂシャの群生の中に一部生育している程度。同定していないが両者の交雑種「ホナガカワヂシャ」らしき種も観察されている。

東久留米の野草(5月に観察した植物)No.5



※ガマ科ナガエミクリ:市内では、絶滅危惧種である同種を多く観察できる。例年6月頃から開花が始まるが今年は半月以上早く開花している。

※スイカズラ科ウゲイスカグラ:早春にピンク色の花を咲かせる低木。今の時期に食する事の出来る赤色の実をつける。